

令和 8 年適性検査

第 Ⅰ 時 限 問 題

適性検査Ⅰ

検査時間 9 時 40 分から 10 時 25 分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (1) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (2) 「解答始め」という指示で、すぐこの表紙に受検番号を書きなさい。続いて、解答用紙に氏名と受検番号を書き、受検番号についてはマークらんもぬりつぶしなさい。
- (3) 問題は 1 ページから 18 ページまであります。表紙の裏と 18 ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、足りないページがある場合は、静かに手を挙げて申し出なさい。
- (4) 余白や白紙のページは、計算などに使ってもよろしい。
- (5) 答えは全て解答用紙のマークらんをぬりつぶしなさい。
- (6) 印刷の文字が見にくいときは、静かに手を挙げて質問してもよろしい。なお、問題の内容について質問することはできません。
- (7) 「解答やめ」という指示で、解答することをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

- 1 次の【文章】は、たかしさんが授業で読んだ文章です。あとの問いに答えなさい。

【【文章】にいたるまでのあらすじ】

東京都の「ビクトリースイミングクラブ」に所属していた小学校6年生の「おれ」(向井航^{むかい こう})は、クラブの友達との関係がこじれてしまったことをきっかけに水泳から遠ざかっていた。しかし、引っ越し先である新潟県の佐渡^{さど}で出会った同級生の「海人^{かい と}」「龍之介^{りゅうのすけ}」「信司^{しん じ}」にさそわれて「ドリームブルースイミングクラブ」に入り、再び水泳を始めた。大会に向けて、海人、龍之介、信司、コーチと合宿をしている。

【文章】

著作権の関係上、文章は表示していません。

著作権の関係上、文章は表示していません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

（高田由紀子『スイマー』による）

- （注） ○ フリー＝ここでは泳ぎ方を問わないということ。クロールが選ばれることが多い。
- 罵声^{ばせい}＝大きな声で悪口を言ってさわぐ声。
- バタフライ＝泳ぎ方の一つ。両うでを同時に後ろから前へ出して水をかき、両足で同時に水をたたいて進む。

- (1) a おれはギリッと奥歯^{おくば}をかみしめた とありますが、このときの「おれ」の心情として適当なものを、次のアからオまでの中から二つ選びなさい。
- ただし、マークらは1行につき一つだけぬりつぶします。

ア 途中で息継ぎ^{とちゅう}してしまったことをひどく後悔^{こうかい}している。

イ 自分の実力不足を思い知らされて絶望している。

ウ 成功した他の3人のことをにくらしく思っている。

エ あまりに厳しい練習^{きび}をさせるコーチへの不満を強く感じている。

オ 次こそは息継ぎをせずに泳ぎ切ろうと決意している。

- (2) 次の【考えたこと】は、b おれは気がつく^{せなか}と、龍之介の背中をさすっていた という表現について、たかしさんが考えたことをまとめたものです。【考えたこと】の(A)から(C)までに当てはまる言葉として最も適当なものを、あとの選択肢^{せんたくし}の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

【考えたこと】

この表現からは、自分の(A)に(B)が追いついていない状態であることがわかります。それだけ「おれ」は、龍之介の姿^{すがた}に強く心を動かされ、(C)と思ったことが伝わる表現だと思いました。

〈A・Bの選択肢〉

ア 意識 イ 期待 ウ 能力 エ 行動 オ 理想 カ 体力

〈Cの選択肢〉

ア 今までのがんばりをほめてあげたい

イ コーチに練習の中止をうったえたい

ウ 一緒^{いっしょ}にがんばろうとはげきたい

エ 失敗したことをかばってあげたい

- (3) 【文章】から読み取れることとして適当なものを、次のアからオまでの中から二つ選びなさい。

ただし、マークらは1行につき一つだけぬりつぶします。

ア 海人は「スペシャルメニュー」を泳ぎ切った仲間の姿を見て、勝つためにつらい練習にたえるという考えが^{しんとう}浸透したと確信した。ここから、強いリーダーシップが仲間の意識を変え、勝利を目指して戦う集団に変化させていくようすを読み取ることができる。

イ 龍之介は「スペシャルメニュー」の苦しさを航と分かち合うことで、航に対してそれまでなかったような親しみを見せるようになった。ここから、厳しい練習と一緒に取り組むことが、仲間同士の心のきよりを^{ちぢ}縮めていくようすを読み取ることができる。

ウ 信司は「スペシャルメニュー」に取り組むことに消極的だったが、仲間のはげましによって泳ぎ切ることができた。ここから、高い目標を立てて最後までねばり強くやり抜くことが、達成感と大きな自信をもたらすということを読み取ることができる。

エ 航は「スペシャルメニュー」に挑む中で、意識を失いそうになっても、たがいを高め合うきずなを感じて泳ぎ切ることができた。ここから、同じ目標に向かって努力する仲間の^{そんざい}存在が、^{こんなん}困難を乗り越えていく力をもたらすということを読み取ることができる。

オ コーチは「スペシャルメニュー」に苦しんでいる4人の姿を見ても、あまやかすことなく最後まで厳しい態度をつらぬき通した。ここから、体力の限界をきわめさせる厳しい練習が、子どもたちを大きく成長させるということを読み取ることができる。

- (4) 【文章】の続きには、航、海人、龍之介、信司の4人が、競泳の大会でリレー種目に出場する場面があります。たかしさんは、その場面を読み、競泳のリレー種目に興味をもちました。次の【まとめ1】は、たかしさんが、競泳のリレー種目について調べたことや考えたことをまとめたものです。【まとめ1】の(X)に当てはまる言葉として最も適当なものを、あとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

【まとめ1】

〈調べたこと〉

競泳のリレー種目の一つにフリーリレーがあります。

フリーリレーは、通常、4人一組のチームで競争するリレー種目で、どの泳ぎ方を使ってもよいことになっています。クロールを選ぶ選手がほとんどです。

25メートルのプールで、一人につき50メートル(コースを1往復したきより)泳ぐフリーリレーの記録を、日本水泳連盟^{にほんすいえいれんめい}のウェブページで調べました。次の表は、日本の男子の最速記録(日本記録)と、日本の男子学童(小学生)の最速記録(学童記録)をまとめたものです。

日本記録	1分23秒80
学童記録	1分41秒77

〈考えたこと〉

仮に、日本記録を出したチームと学童記録を出したチームが、同時にスタートしたらどうなるかを考えました。

考えやすくするために、日本記録は1分24秒、学童記録は1分42秒とします。また、どちらのチームも、チーム全員が同じ速さで泳いでいるとして考えることにします。

日本記録を出したチームは、学童記録を出したチームよりも18秒早くゴールし、日本記録を出したチームがゴールしたとき、学童記録を出したチームは、第4泳者が(X)あたりであることがわかりました。

ア スタートした

イ スタートしてコースを半分泳いだ

ウ 折り返した

エ 折り返してコースを半分泳いだ

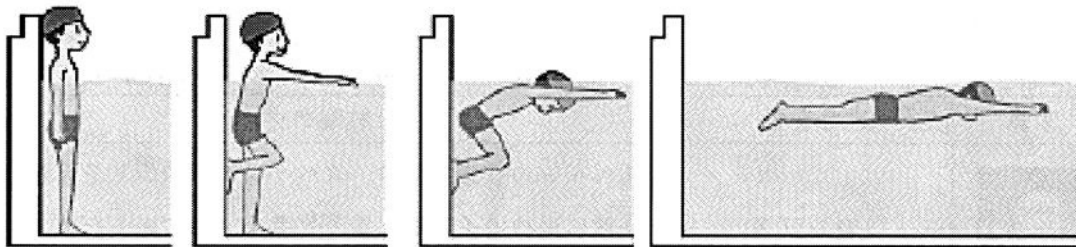
- (5) たかしさんは、水泳の授業でクロールの練習をしています。その中で、けのびでスムーズにスタートを切ることや、ばた足を上達させることが必要だと感じました。次の【まとめ2】は、たかしさんが、けのびとばた足について調べ、わかったことをまとめたものです。下の【資料】を参考に、【まとめ2】の（Ⅰ）から（Ⅲ）までに当てはまる言葉として最も適当なものを、あとの選択肢の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

【まとめ2】

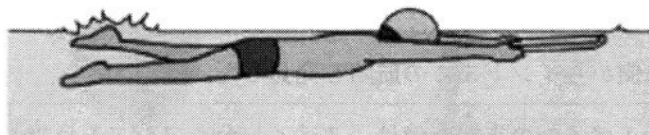
けのびは、力強く両足でプールのかべをけてって勢いをつけます。水中では、（Ⅰ）、プールの底を見るようにします。力を抜いて、（Ⅱ）姿勢で進むことが大切です。ばた足は、足首をのばして、ひざが大きく曲がらないように（Ⅲ）を使うことを意識して、リズムカルに行うことが大切です。

【資料】

〈けのび〉



〈ばた足〉



（文部科学省「小学校体育（運動領域）^{うんどうりょういき}まるわかりハンドブック」をもとに作成）

〈Ⅰの選択肢〉

- ア 進む方向に顔を向けて イ 背中を反らせて ウ あごを引いて

〈Ⅱの選択肢〉

- ア ヘそを中心に体を曲げた イ 体を一直線にのばした ウ 手足を横に開いた

〈Ⅲの選択肢〉

- ア 太もも イ ^{こし}腰 ウ 足の裏^{うら}

2 てつやさんとしおりさんは、星を観察することに興味をもちました。あとの問いに答えなさい。

- (1) てつやさんは、15 世紀から 16 世紀にかけて、天文学の発達とともに、航海する技術が進歩し、ヨーロッパの人々が遠くまで航海できるようになったことを知りました。そこで、このころのヨーロッパのようすについて調べ、次の【まとめ 1】をつくりました。【まとめ 1】をもとに、3 人の航海者に共通するものとして最も適当なものを、あとのアからエまでのの中から一つ選びなさい。

【まとめ 1】

〈15 世紀から 16 世紀にかけてのヨーロッパのようす〉

- ・ 星の位置や太陽の高さなどを調べると、海上で自分がどこにいるかわかるようになった。
- ・ 磁石^{じしやく}の性質を利用することで方位がわかり、目的地に向かって進むことができるようになった。
- ・ 主にスペインやポルトガルは、貿易などをするために、アジアへの航路を開こうとする人々を支援した。
- ・ 地球は丸いという考えが広まった。

〈15 世紀から 16 世紀にかけて活躍^{かつやく}した 3 人の航海者〉

写真	航海者名	主な航海の内容
歴史上の人物	コロンブス	スペインの支援を受け、スペインからインドを目指した。西に進めばインドに着くと考え、西に進んだ結果、北アメリカ大陸の東側にある島に着いた。
歴史上の人物	バスコ・ダ・ガマ	ポルトガルの支援を受け、ポルトガルからインドを目指した。アフリカ大陸を西側から回り、アフリカ大陸の東側からインドまでの航路を発見した。
歴史上の人物	マゼラン	スペインの支援を受け、スペインからアジアを目指し南アメリカ大陸を東側から回った。マゼランは航海の途 ^と 中 ^{ちゆう} で命を落としたが、部下が世界一周を果たした。

ア インド洋を航海し、目指していたアジアの国にたどり着くことができた。

イ スペインまたはポルトガルの支援を受け、目的地に向かって大西洋を航海した。

ウ 西に行けばアジアがあると考え、出発地から西に向かって太平洋を航海した。

エ 地球は丸いという考えをもとに、初めての世界一周航海を目指した。

(2) てつやさんとしおりさんは、次の【資料1】の星座早見を使い、星の観察をしました。

【資料1】を読んで、あとの①から③までの問いに答えなさい。

ただし、問題中の星座早見は、【資料1】の星座早見を指します。

【資料1】

〈星座早見の構造〉

- ・[星座盤]の上に[回転盤]を重ねている。
- ・[星座盤]には、星座がえがかれており、その外側に月日の目盛りが示されている。
- ・[回転盤]には、夜空で見える範囲が透明になっている窓があり、そのまわりに方位が示されている。また、その外側に時刻の目盛りが示されている。

[星座盤]

[回転盤]

星座早見の写真

〈星座早見の使い方の手順〉

- 1 [回転盤]を回し、観察するときに月日の目盛りと時刻の目盛りを合わせ、[回転盤]の窓からそのときに夜空で見える星座を確認する。
- 2 方位磁針を使って観察する方位を調べ、その向きに立つ。
- 3 観察する方位が下になるように星座早見を持ち、夜空と比べて星座を探す。

〈使い方の例〉

7月7日の午後9時(21時)の北の空を観察する場合は、次のように目盛りを合わせて、星座早見を持つ。

星座早見の写真

- ① 次の【気づいたこと】は、てつやさんが、星座早見について気づいたことをまとめたものです。【気づいたこと】からわかることとして最も適当なものを、あとのアからエまでのの中から一つ選びなさい。

【気づいたこと】

- ・観察する時刻に合わせて〔回転盤〕を回すと、〔回転盤〕の窓から見える星座の動きは、夜空の星座の動きと同じである。
- ・〔回転盤〕の東と西は、北が上のとき東が右で西が左にある地図とは左右が逆になっている。
- ・〔回転盤〕には、時刻が0から23までの数字で示され、目盛りで区切られている。
- ・観察したい月日の目盛りと時刻の目盛りを合わせると、そのとき空にある星座を確認できるだけでなく、それらの星座が同じ位置にある他の月日と時刻も目盛りからわかる。

〈例〉

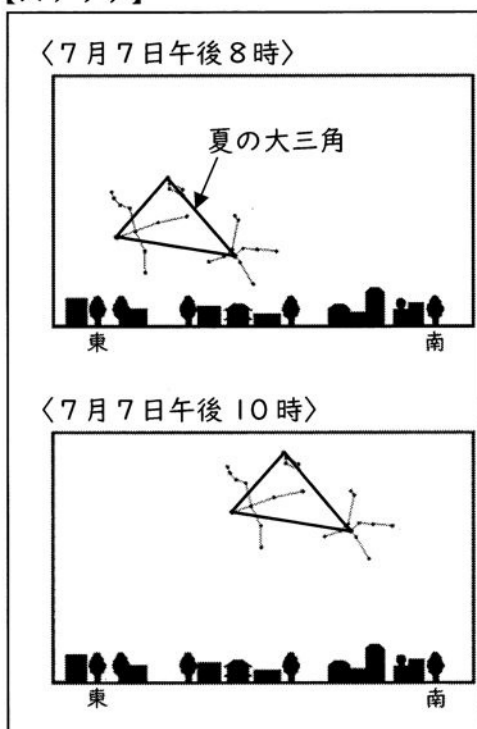
7月7日の午後9時に目盛りを合わせると、4月6日の午前3時、1月5日の午前9時と目盛りが合う。

星座早見の写真

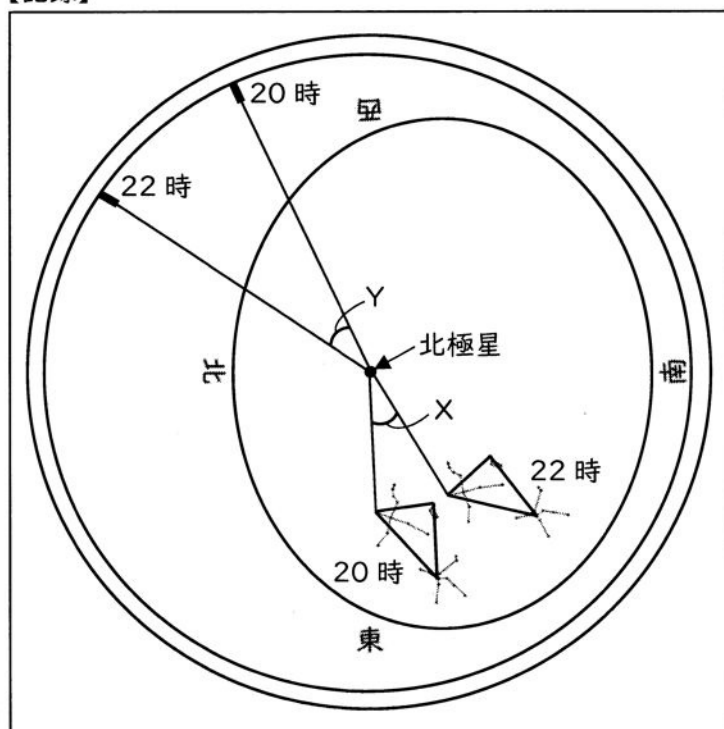
- ア 星座早見では、4月6日午前3時と7月7日午後9時には、夜空に同じ星座が見えることが確認できる。しかし、それぞれの日時の夜空で見られる星座は、季節が変わっているため同じ方位には見えない。
- イ 星座早見の東西は、北が上の地図とは逆になっている。それは、星座早見が空から地面を見下ろしたときの図であるのに対して、北が上の地図は空を見上げることを考えてつくられているからである。
- ウ 星座早見の〔回転盤〕には、時刻が0から23までの数字で示され、15分ごとに時刻の目盛りで区切られている。目盛りが細かく区切られていることで、観察するときに、正確に時刻を合わせることができる。
- エ 星座早見の〔回転盤〕を回転させていくと、一日のそれぞれの時間ごとの空にある星座を、〔回転盤〕の窓から確認できる。それにより、昼間には星座を見ることができないが、そこにあるはずの星座のおよその位置を知ることができる。

- ② 次の【スケッチ】は、しおりさんが、ある年の7月7日の午後8時（20時）と午後10時（22時）に、愛知県のある地点で、夜空に見えた夏の大三角をスケッチしたものです。また、【記録】は、しおりさんが、スケッチした時刻に星座早見の〔回転盤〕の窓から確認できた夏の大三角の位置を記録したものです。しおりさんは、【スケッチ】と【記録】をもとに、下の【まとめ2】をつくりました。【まとめ2】の（ A ）に当てはまる数として最も適当なものを、あとのアからオまでの中から一つ選びなさい。

【スケッチ】



【記録】



【まとめ2】

【スケッチ】を見ると、夏の大三角は東の空から南の空に動いていることがわかります。このことは、【記録】からも、〔回転盤〕の窓から見える夏の大三角が、北極星を中心に、東から南の方へ動くようすとして確認できました。【記録】の20時のときのデネブと北極星、22時のときのデネブと北極星をそれぞれ結んだ線によってできるXの角の大きさは、〔回転盤〕の20時の目盛りと北極星、22時の目盛りと北極星をそれぞれ結んだ線によってできるYの角の大きさと同じなので、Xの角の大きさは（ A ）度です。

ア 15

イ 20

ウ 24

エ 30

オ 36

- ③ 次の【会話】は、てつやさんとしおりさんが、下の【資料2】と【資料3】をもとに話したときのものです。【会話】の（Ⅰ）と（Ⅱ）に当てはまるものとして最も適当なものを、あとのアからエまでの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

ただし、アからエまでの星座早見^{せいざはやみじょう}上に点線で示した範囲は、その範囲のずれる方向のみを考えるものとします。

【会話】

てつやさん：星座早見^{ほくい}は、北緯35度、東経140度の地点を基準としていて、そこで見える範囲の星座を確認できるようにつくられているそうだよ。

しおりさん：愛知県の刈谷市^{かりやし}は、星座早見が基準とする地点と経度がちがっていて、秋田県の大潟村^{おおがたむら いど}は緯度がちがっているね。

てつやさん：緯度と経度のちがいによって、星座早見で確認できる範囲は、実際に刈谷市と大潟村で見える範囲とずれているね。

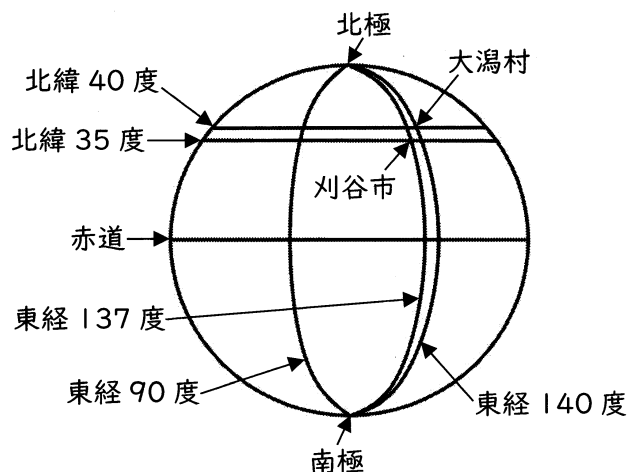
しおりさん：刈谷市では、（Ⅰ）の星座早見上に点線で示した範囲の夜空が見えて、大潟村では、（Ⅱ）の星座早見上に点線で示した範囲の夜空が見えるね。

てつやさん：北極星^{えんちようせんじょう}は南極と北極を結んだ延長線上にあるよ。北極星の見え方がどのように変わるのかを考えるとわかりやすいね。

【資料2】刈谷市と大潟村の緯度と経度

	緯度	経度
刈谷市	北緯 35 度	東経 137 度
大潟村	北緯 40 度	東経 140 度

【資料3】刈谷市と大潟村の位置



ア

イ

ウ

エ

星座早見の写真

3 なつみさんは、日本と外国との関わりの歴史について調べました。あとの問いに答えなさい。

- (1) なつみさんは、日本が外国と関わる中で、外国から日本にさまざまな楽器がもたらされたことを知りました。そこで、楽器について調べ、名前や写真、わかったことをまとめるために、次の【表】をつくりました。【表】の①と⑤に当てはまる写真と文章として最も適当なものを、あとの選択肢の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

【表】

	楽器Ⅰ	楽器Ⅱ	楽器Ⅲ
名前	こと（箏）	しゃくばち 尺八	びわ 琵琶
写真	①	②	③
わかったこと	④	⑤	⑥

〈①の選択肢〉

ア



イ



ウ



〈⑤の選択肢〉

ア 一般的に竹でつくられている。今の標準的な長さ（約 55cm）になったのは江戸時代で、この長さが、楽器の名前の由来と言われている。

イ この楽器に形が似ていることから、名前が付いたと言われる果実がある。正倉院には、インドで生まれたと考えられる、弦が5本あるものが納められていた。

ウ 全体が「竜」の姿にたとえられ、部位の名前に「竜」という字が入るものが多い。演奏するときには、「つめ」と呼ばれるものを指にはめる。

- (2) なつみさんは、中国でつくられたお金が日本で使われていた時代があったことを知り、日本のお金の歴史について調べました。次の【まとめ1】は、なつみさんが、調べた中で印象に残った「^{こうしゅうきん}甲州金」についてまとめたものです。【まとめ1】の(A)から(F)までに当てはまる数として最も適当なものを、あとの選択肢の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。
- なお、(B)から(F)までは、同じ記号を2度以上用いてもよいこととします。

【まとめ1】

戦国時代に、現在の山梨県などを支配した戦国大名の^{たけだし}武田氏は、^{きん}金をお金として使いました。このお金は^{こうしゅうきん}甲州金と言われ、^{しはいちいき}武田氏の支配地域で流通していました。

右の表は、甲州金の種類の一部と1枚あたりの^{まい}価値についてまとめたものです。表から、系目金を(A)枚集めると、一両金1枚と価値が同じになることがわかります。ここから、甲州金の種類や枚数の^{まいすう}組み合わせを変えても、価値が同じになることがあると気づきました。

例えば、一朱金が40枚あるとします。これと価値が同じになる組み合わせを、表をもとに考えると、枚数が最も少なくなるのは4枚のときで、「一両金2枚、一分金2枚」となります。また、枚数が7枚のときは、「一両金1枚、一分金6枚」または「一両金2枚、一分金1枚、一朱金4枚」の2とおりあります。枚数が10枚のときは、4とおりあります。

では、系目金が365枚あるとしたらどうなるでしょう。これと価値が同じになる組み合わせで、枚数が最も少なくなるのは、「一両金(B)枚、一分金(C)枚、一朱金(D)枚、系目金(E)枚」のときです。また、枚数が17枚のときの組み合わせは、(F)とおとりあることがわかりました。

今、^{わたし}私たちは、1000円のものを買うときに、千円札1枚や、百円玉10枚、百円玉9枚と十円玉10枚など、さまざまな^{しはら}組み合わせで支払うことができます。お札や^{こぜに}小銭を組み合わせで支払うときの考え方と、武田氏が考えた甲州金の価値の考え方は、似ていると思いました。

	1枚あたりの価値
^{いちりょうきん} 一両金	
^{いちぶきん} 一分金	一両金の ^{ぶん} 4分の1
^{いっしゆきん} 一朱金	一分金の4分の1
^{いとめきん} 系目金	一朱金の4分の1

〈Aの選択肢〉

ア 4 イ 12 ウ 16 エ 32 オ 64

〈BからFまでの選択肢〉

ア 0 イ 1 ウ 2 エ 3 オ 4

カ 5 キ 6 ク 7 ケ 8 コ 9

- (3) なつみさんは、戦国時代にキリスト教が伝来したことを知り、日本とキリスト教の関わりについて調べ、次の【年表】をつくりました。さらに【年表】に加える出来事を調べていく中で、【資料1】を見つけました。下の【まとめ2】は、なつみさんが、【資料1】について調べたことをまとめたものです。【まとめ2】の(X)に当てはまる文として最も適当なものを、あとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

【年表】

年	主な出来事
1549	キリスト教が伝来する
1587	<small>せんきようし</small> 宣教師を追放する命令が出る
1612	<small>えどばくふ</small> 江戸幕府がキリスト教の禁止令を出す
1637	<small>しまばら</small> <small>あまくさいつき</small> 島原・天草一揆が起こる
1641	<small>ばくふ</small> <small>てしま</small> 幕府が、オランダ人を長崎の出島に移す

【資料1】

天正遣欧使節

【まとめ2】

【資料1】は、九州の大名たちの代理として、イタリアに派遣された使節のメンバーです。かれらは日本を出発し、およそ2年半をかけてヨーロッパに着き、ヨーロッパの人々にかんげいされました。かれらが出発した年の主な出来事には、(X)ことが挙げられます。そして、出発した年から8年後、日本に帰国しました。しかし、かれらが帰国する3年前に、豊臣秀吉が宣教師を追放する命令を出すなど、キリスト教を禁止する動きが強まっていました。かれらの中には、帰国した後に日本の国外へと追放されてしまった人もいました。

ア ポルトガル人が、種子島たねがしまに流れ着き、鉄砲てつぽうを伝えた

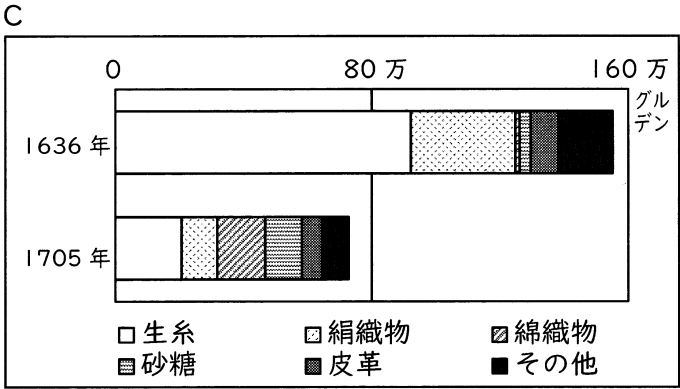
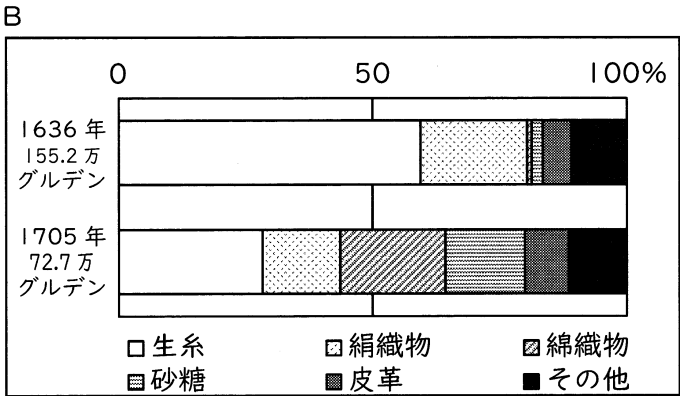
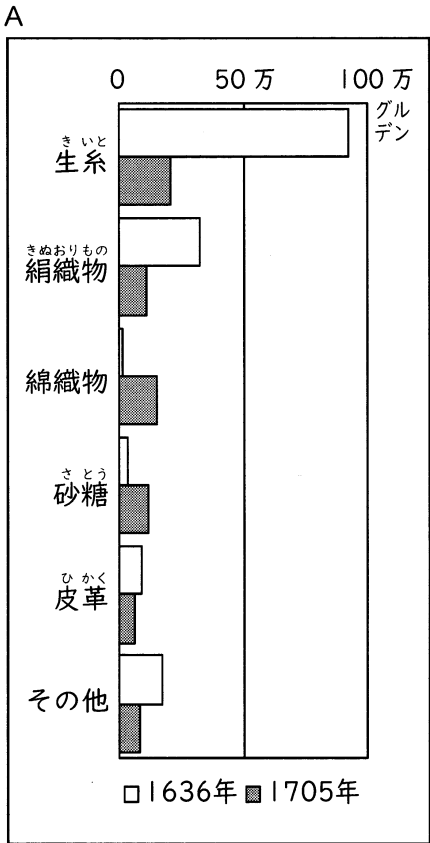
イ 足利氏あしかがしが、京都から追放され、室町幕府むろまちばくふがほろびた

ウ 織田信長おだのぶながが、本能寺で家来の明智光秀あけちみつひでにおそわれた

エ 豊臣秀吉が、全国の大名をおさえ、天下統一をした

(4) なつみさんは、江戸時代に日本がオランダと貿易をしていたことを知って調べたところ、1636 年と 1705 年のオランダから日本への輸入品の金額に関する資料を見つけました。なつみさんは、この資料をもとに、輸入品とその金額に関連する次の A から C までのグラフをつくりました。下の【感想】は、A から C までのいずれかのグラフを見た友達の感想です。

【感想】の (I) と (II) に当てはまる記号と言葉の組み合わせとして最も適当なものを、あとのアからカまでの中から一つ選びなさい。



（科野孝蔵『オランダ東インド会社の歴史』をもとに作成）

(注) ○ 皮革^{ひかく}＝動物の皮やそれを加工したもの。○ グルデン＝当時のオランダのお金の単位。

【感想】

(I) のグラフを見ると、1636 年と 1705 年のどちらも生糸が最も大きいことがわかるね。また、1636 年と 1705 年を比べると、減っている輸入品の中で、変化が最も大きいのも生糸だね。反対に、1636 年から 1705 年で増えているのは綿織物だね。綿織物以外にも、(II)、皮革も増えていることがわかるね。

- | | | | | | | | | |
|---|-------|----------|---|-------|----------|---|-------|----------|
| ア | I : A | II : 絹織物 | イ | I : B | II : 絹織物 | ウ | I : C | II : 絹織物 |
| エ | I : A | II : 砂糖 | オ | I : B | II : 砂糖 | カ | I : C | II : 砂糖 |

- (5) なつみさんは、オランダから江戸幕府に対し、当時日本にいなかった動物がおくられたことを知り、次の【資料2】を見つけました。【資料2】でしうかいされている動物として最も適当なものを、あとのアからエまでの中から一つ選ひなさい。

【資料2】

牡^{おす}八^{さい}歳、牝^{めす}七^{しち}歳。
身^{たけ}の丈^{しやく}高さ九^く尺、首^おより尾^びまで一^{いち}丈^{じゆう}二^に尺。
その形は、……耳^{みみ}たれて、脚^{あし}に三^{さん}つの節^{ふし}ありて、居^おる時は脚^{あし}を三^{さん}つに折^ひるゆえに乘^のるに便^{べん}也^{なり}。
……また好^{この}んでだいこんを食^くう。一度^{いちど}飽^あくまで食^くすれば四^よ、五^ご日^{にち}食^くせず。
一日^{いちにち}に百^{ひやく}里^りの路^{みち}を行^いきて労^あする色^{いろ}なし。重^{おも}きを負^おう事^{こと}、千^{せん}五^ご百^{ひやく}斤^{きん}にいたる。
……生^う質^{まれつき}柔^{にやう}和^わにして人^{ひと}に馴^なれやすしゆえに、蛮^{ばん}人^{じん}はこれ^{これ}を養^{やし}うて牛^{ぎう}馬^ばのごとくす。……

(江戸時代の浮世絵に書かれた文章をもとに作成)

- (注) ○ 尺^{しやく} = 1尺は約 30cm。
○ 丈^{じゆう} = 1丈は約 3m。
○ 居^おる = すわる。
○ ゆえに = ために。
○ 飽^あく = 満足する。
○ 百^{ひやく}里^り = 約 400km。ここでは、とても長いきよりを表す。
○ 労^あする = つかれる。
○ 千^{せん}五^ご百^{ひやく}斤^{きん} = 約 900kg。ここでは、とても重いことを表す。
○ 柔^{にやう}和^わ = やさしくおだやかなようす。
○ 馴^なれやすし = なつきやすい。
○ 蛮^{ばん}人^{じん} = 外国人。
○ ごとか = ように。

ア ラクダ

イ ロバ

ウ キリン

エ ゾウ

(6) なつみさんは、【資料2】でしようかいされた動物が日本国内を移動したことを知りました。

なつみさんは、移動の記録を調べていく中で江戸時代と現代ではこよみが異なることに気づき、江戸時代のこよみについて調べました。次の【まとめ3】は、なつみさんが調べたことについてまとめたものです。【まとめ3】から読み取れることとして最も適当なものを、あとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

【まとめ3】

【資料2】の動物はめずらしかったので、移動した先々で多くの人が見物したそうです。移動した期間がはっきりわかるものとして、1824年の「8月9日」に伏見宿（現在の岐阜県）を出発し、「^{うるう}閏8月5日」に^{いたばしじゆく}板橋宿（現在の東京都）に着いたという記録が残っています。

江戸時代のこよみは月の見え方をもとにしていて、1年間は約354日となります。そのため、こよみと実際の季節とのずれがだんだん大きくなってしまいます。そこで、ずれがだいたひとつきぶんい一月分に近くなると、「^{うるうづき}閏月」を入れて調整します。1824年は、8月の後に「閏8月」がありました。

では、閏月はどのように決定されるのでしょうか。それは、^{にじゅうしぜつぎ}二十四節気をもとにしています。二十四節気は、1年を春夏秋冬に分け、さらにそれぞれを6つに分けたものです。立春^{りっしゆん}や夏至^{げし}など今でも用いられているものがあります。この二十四節気とこよみのずれが大きくなるところに閏月を入れました。閏月を入れる時期を決めるのは、江戸幕府の^{てんもんがた}天文方というこよみの研究機関でした。

また、江戸時代のこよみには「大の月」と「小の月」がありました。大の月の日数は30日、小の月の日数は29日でした。これも天文方が決めていましたが、年によって大の月と小の月になる月は変わりました。

〈1824年の大の月と小の月〉

大の月	1, 2, 5, 8, 9, 11, 12	小の月	3, 4, 6, 7, 閏8, 10
-----	-----------------------	-----	--------------------

(注) ○ こよみ＝1年中の月日、曜日や日の出入りの時刻^{じこく}、月の見え方、行事などを日の順に記したもの。

ア 江戸時代と現代のこよみの1年間の日数を比べたときの約11日の差を調整するため、閏月は11日間とされていた。

イ 閏月は、二十四節気とこよみのずれが大きくなる月の後に、天文方によって、4年ごとに一度入れられていた。

ウ 1824年の江戸時代のこよみでは、大の月の数は7つあり、2026年の現代のこよみと同じ日数の月の数は3つある。

エ この動物が伏見宿から板橋宿まで移動した日数は、出発した日と着いた日も日数に入れると、27日間である。

(問題はこれで終わりです。)